

「布施」はインドの言葉でダーナダンナ（檀那）と云います。「布施」には「財施」・「法施」・「無畏施」の三種あります。金品での施しを「財施」、僧侶が仏法を説くことを「法施」、そして金品とかの物でなく心で相手の恐れ心配を取りのぞいてあげるのを「無畏施」と云います。但し、名利や見返りを期待しての施しは「不清淨施」で布施では無いのです。

また、金品が無くても簡単にできる「無財の七施」があります。慈しみの眼差し「慈眼施」、和やかな顔付き「和顔施」、愛のある言葉「愛語施」、体による奉仕「捨身施」、喜びや悲しみを分かち「心慮施」、場所や座席をゆずる「床座施」、室や軒先を貸す「房舎施」。施しの心は、いつくしみの心からなのです。